

第2回こんな長崎どがんです会（令和4年5月28日）

テーマ：子育てについて 参加者：8名（子育て中の方、子どもや子育てに関わる方）

主な意見	対応状況
<p>（子ども食堂について）</p> <p>○長崎県の子ども食堂充足率は全国最下位であり官民一体で取組の拡大が必要。</p> <p>○子ども食堂で食材を配るアウトリーチ活動を行っており、こうした取り組みの充実が必要。</p>	<p>子ども食堂については、現在県が把握する範囲で、県内に60か所がございます。県としては子どもの貧困対策として、コーディネーターとともに市町に対して子ども食堂を含む子どもの居場所と連携した事業構築を促すほか、居場所を担っていただける団体や企業の掘り起こしにも引き続き取り組んでまいります。</p>
<p>（出産・子育ての悩みへの対応や孤立化の防止について）</p> <p>○移住者や二次離島居住者の出産への不安軽減のため、バースハウスなどでの手厚いサポートが必要。</p> <p>○県に、子育て相談のワンストップ窓口を設け、プロを置いて欲しい。</p> <p>○子育ての悩みに、相談したらすぐレスポンスがある仕組みがつかれないか。</p> <p>○妊婦のうちに産んだ後の不安を減らすために色々と学べる場所があると良い。</p> <p>○行政と提携して親子で学べる場をつくり、子育て中の親の悩みを減らしたい。○子育て支援センターの色々な機能を正しく知ってもらい、活用してほしい。</p> <p>○孤立化防止のため、子育て支援センターはコロナ禍でもなるべく受け入れを。</p> <p>○親の孤立を防ぐサービスには、自ら出ていけない人に届ける工夫も必要。</p> <p>○父親が会える場所づくりも子育てにとって大事であり、もっと増えてほしい。</p>	<p>出産・子育ての悩みや不安の解消、子育て中の方の孤立化防止については、主に各市町において、子育て世代包括支援センターの設置や、出産・子育て応援交付金事業による妊産婦等への面談等の実施、乳児家庭全戸訪問事業の実施、地域子育て支援拠点（子育て支援センター）の設置等により、相談体制の構築、地域の子育て関連情報の提供、学びや交流の場の提供等が行われています。</p> <p>県としては、各市町と連携しながら、こうした施設やサービス等の認知度の向上に努めつつ、ポータルサイト・LINE等を活用した県民の皆様にとってより利用しやすい相談支援体制づくりを進め、アウトリーチ型の支援の在り方についても検討してまいります。</p>
<p>（子育て中のリフレッシュについて）</p> <p>○保育園での一時預かりの体制づくりのため、県独自の保育士の配置基準を設けてほしい。</p> <p>○一時預かりの利用のハードルを下げると一時保育や一時預かりという言葉を変えるべき。</p> <p>○家事サポートの無料化を移住者に限定しないでほしい。</p>	<p>子育て中の方のリフレッシュについては、主に各市町において、一時預かり事業やファミリー・サポート・センター事業、子育て短期支援事業等によって、育児疲れ等による心理的・身体的負担を軽減するための支援が行われています。</p> <p>県としては、各市町とも連携しながら、子育て中の方がそうした事業やサービスをより気兼ねなく利用していただけるような環境づくりやサービス提供の在り方について検討を進めてまいります。</p>
<p>（子どもの遊び場・地域の集いの場づくりについて）</p> <p>○近所に子どもを遊ばせる屋内施設や、気軽に行ける支援施設が欲しい。</p> <p>○既存の施設や公民館を利用し、民間やシニア世代の力を借りていけないか。</p> <p>○集会所や公民館を最新技術で管理する等し、夜中でも使えたり、営利目的も可能としたりなど若者や地域の集いの場として柔軟な利用を促進すべき。</p> <p>○行政の施設の利用基準の明確化等により、活用のハードルを下げるべき。</p>	<p>子どもの遊び場や地域の集いの場づくりについては、各自自治体において、施設の活用や整備などを行っています。</p> <p>施設利用の弾力化や明確なルール策定についても、原則的には施設を管理する自治体において検討するものと考えますが、県としましても、子どもがのびのびと安全に遊べる場づくりや、地域における子育て支援等に資するための既存施設の活用の在り方について、市町と情報共有を図りながら検討してまいります。</p> <p>なお、子どもの居場所づくりについては、「新しい長崎県づくりビジョン」において「こどもが主役のこども場所をみんなで創る社会の実現」を掲げ、令和6年度から全体構想策定や民間団体との連携などに取り組んでまいります。</p>